【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福	井	県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名		武生;	方 武 生	第二中	学校	
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	1	1 6	2.1
生徒数	1 6 5	1 6 7	1 7 5	3	5 1 0	3 1

研究の概要 1.研究主題

確かな学力を身に付けるための指導方法と指導体制の在り方について

2.研究内容と方法 (1) 実施学年・教科

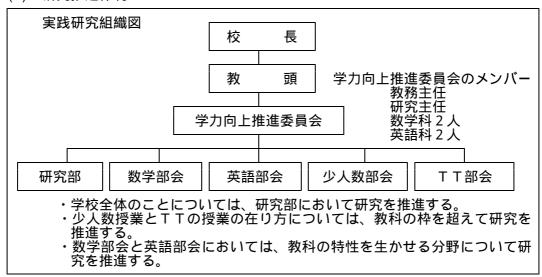
- ・2年生(数学) 生徒の習熟の状況に差が出やすい教科であり学年であるため。 ・3年生(数学) 中学校の最終学年であり習熟の程度の差に応じた指導が必要なため。
- ・1年生(英語) 初めて学習する科目であり一人ひとりに基礎・基本を徹底するため。 ・3年生(英語) 中学校の最終学年であり習熟の程度の差に応じた指導が必要なため。

(2) 年次ごとの計画

(-)	1 MC CONTA
平	テーマ 個に応じた少人数授業やTT授業の在り方について
_	研究の見通し
成	一人ひとりの学力の向上のためには、どのような少人数授業・TT授業のシステムが効果的であるかについて研究を進めていく。学力向上のモデル(方針)を明確にして、指導方法と指導体制を整備すれば個に応じた対応ができて一人ひとりの学力の向上につながる。
15	
年	研究の内容・方法 ・学力向上モデル(方針)の作成 ・少人数授業とTT授業における生徒への支援の方法 ・少人数授業の効果的なシステムの開発
度	・少人数授業のコースづくりの工夫 ・少人数授業における習熟度別の工夫 ・補充的な学習の工夫 ・学力の質を高める場としての総合的な学習の時間の充実

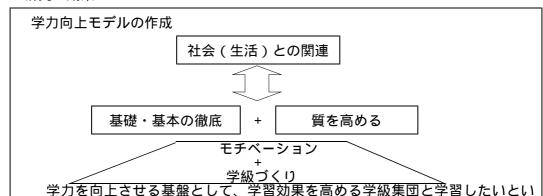
平	テーマ 評価を生かしたた少人数授業やTT授業の在り方について
成	研究の見通し ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
16	の向上を図ることができる。
年	研究の内容・方法 ・少人数授業やTT授業における評価方法の工夫。
度	・評価を指導に生かしていく方法の工夫。 ・確実に学力を向上させる指導方法・体制の工夫。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1.研究の成果



学力を向上させる基盤として、学習効果を高める学級集団と学習したいという意欲が必要である。また、学力をより向上させるためには、基礎・基本の習得だけでなく、学力の質の高まりも大切である。また、身に付けた学力が実生活と結びついていることが次の学習意欲につながっていくと考えられる。学力向上のモデルを明確にしたことで学校全体の活動目標が定まり、学力向上への 道筋がはっきりした。 少人数授業とTT授業における生徒への支援の方法

他の形態の授業に比べて一人ひとりへの声かけが多くなるように取り組んだ。 少人数授業では、教師が何回も巡回し個別に指導する機会を増やし、 TT授業 においては、中心になって授業を進める人と生徒の支援に回る人に役割を分担した。その結果、少人数授業とTT授業ともに質問しやすいと感じている生徒が91%に達した。

が91%に達した。
少人数授業の効果的なシステムの開発
基礎的な力をつける段階では、均等にクラス分けを行い、より発展的な力を
つける段階では、習熟度別にクラス分けを行った。あわせて習熟度別の少人数
授業では、補充的な学習も行った。均等の少人数授業と習熟度別の少人数授業
を組み合わせたことにより、少人数授業を効果的に実施できた。
少人数授業のコースづくりの工夫
数学科・英語科ともに発展的な内容について、3つのコースを用意して習熟
度別に学習できるようにした。特に数学的な見方・考え方やコミュニケーション能力の育成に効果があった。

少人数授業における工夫

徒が増えた。

補充的な学習の工夫

選択教科において、補充的な学習を計画的に取り入れることや学年ごとに放課後や長期休業を利用した学習会の実施などを行った結果、数学の計算や英語のライティングの能力を向上させることができた。計算や単語のテストでは、 96%の生徒に向上した。

学力の質を高める場としての総合的な学習の時間の充実

総合的な学習の時間において、実社会とふれあう機会を多くすることと生徒の力を最大限に発揮できる場にすることを主眼に活動を進めた。その結果、まとめの新聞づくりやレポート作成において生徒の力の伸びを感じることができ

2. 今後の課題

少人数授業とTT授業において、生徒の学力を確実に向上させていくために は、評価の面の研究を進める必要がある。今年度も評価規準の作成は行ったが、 指導に生かせることが少なかった。来年度は、授業中にできる評価の仕組みを 整え、指導に生かすことができるようにしたい。また、学校全体としても学力 を確実に向上させるための方策を考えていきたい。

学力把握のための学校としての取組み

定期テスト(7月・10月・12月・3月)・・学力の把握のため 計算テスト(5月・7月・11月・1月)・・基礎・基本の徹底のため 単語テスト(5月・7月・11月・1月)・・基礎・基本の徹底のため 学習意識調査(10月)・・学力意識の変化や授業の実態を把握するため

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年10月 2日 公開授業

数学科の少人数授業とTT授業 英語科の少人数授業とTT授業 武生市教務主任会での実践報告

平成15年11月28日 平成15年11月29日

オープンスクール(1校時~5校時) 保護者に向けて少人数授業やTT授業を公開

平成16年 1月22日 県教務主任会での実践報告 その他

- ・ホームページにおいてフロンティアスクールとしての取組みを紹介している。
 ・アスクールとしての取組みを紹介している。 保護者の理解を得ている。
- ・保護者対象にフロンティアスクールの説明会を開催した。

次の項目ごとに、該当	する箇所をチェッ	ックすること。(複数チェ	:ック可)
【新規校・継続校】	15年度から	の新規校	□ 14年/	度からの継続校
【学校規模】	□ 3 学級以下 □ 7 ~ 9 学級 □ 1 3 ~ 1 5 学	□ 1	~6学級 0~125 6学級以	
【指導体制】	少人数指導 □ その他	Т	. Tによ [?]	る指導
【研究教科】	外国語 [□ 社会 □音楽 □: □ その他	数学 美術	□ 理科 □ 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 口 無				